別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（若手研究）

研究代表者　所属・職名　人文・社会教育学系・准教授
氏　　名　　長谷川　佑介

研究期間　令和２年度

研究プロジェクトの名称	英語リーディングにおける精緻化推論の働きに着目した物語教材の開発
研究プロジェクトの概要	本学が掲げる「21 世紀を生き抜くための能力＋α」の中核をなす「思考力」には、一人ひとりの意思決定や異なるアイディアの比較に関する能力が含まれる。従来の大学英語教材で用いられる英文の多くは（多読・メディア系の教材を除き）説明文であると思われるが、小・中学校教員を多く輩出する本学の特性を踏まえると英語で書かれた物語文を深く理解する能力を涵養することも重要である。物語の深い理解には精緻化推論と呼ばれるメカニズムが関わっており、英文を読み進めながら精緻化推論を働かせる力を育むことは本学においても大いに意義がある。そこで、本研究では英語授業の中で英文の字義的な理解だけに留まらず、一人ひとりが思い描く物語世界を学習者同士で比較させる活動に適した新教材を開発した。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	英文理解には命題の字義的な理解だけでなく、話のつじつまを合わせるために自然に生成される「橋渡し推論」や一人ひとりの背景知識に基づいて物語を解釈するための「精緻化推論」といった心的処理が含まれる。精緻化推論などの働きにより英語学習者が物語文を深く理解するときには、時間（time）・空間（space）・主体（protagonist）・意図（intentionality）・因果（causation）という５つの次元を含む状況モデル（situation model）が心内で構築されると考えられている（参考：Zwaan & Radvansky, 1998）。この５つの次元を参考に、本研究ではあえて多様な解釈の可能性を残した物語教材を開発した。たとえば「主体」の次元について、登場人物が優しい性格なのか意地悪な性格なのかなどを英文中ではあえて断定しないでおき、英文中に描写された行為や出来事に基づいて読み手自身が人物像を判断することができるようにしておくことで、英語授業で本教材を活用する際に教室内で異なるアイディアの比較ができるようにしてある。今後、この教材を用いた授業の効果等についてさらなる分析を行う予定である。
研究成果の発表状況	2021 年 3 月時点では準備中である。
学校現場や授業への研究成果の還元について	本研究プロジェクトによる研究成果は、本学で実施している教員免許法認定講習等においても活用し、地域の教員にも積極的に還元する。また、この教材を用いた授業の効果等についての分析結果がまとまり次第、学術誌などへの論文投稿を行いたいと考えている。